

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0972600399		
法人名	社会医療法人 恵生会		
事業所名	グループホーム 桜野		
所在地	栃木県さくら市桜野1297番地3		
自己評価作成日	平成27年1月23日	評価結果市町村受理日	平成27年3月18日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/09/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成27年2月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1. 利用者様本人の「意思」「今の思い」を大切に、「生活のパートナー」として意識を共有し、「穏やかで安らぎのある暮らし」「自立した生活」営めるよう支援させていただいている。
2. 隣地に、同法人の病院、介護老人保健施設、訪問看護ステーション、居宅支援事業所、有料老人ホームがあり、「地域と密着して生きる」地域貢献を目標に上げ、各事業所と連携し、医療、介護のトータルしたサービスの提供を行うことにより、利用者本人に「安全」に過ごしていただき、家族様には「安心」していただけるよう心がけている。緊急時の病院のバックアップ体制あり。
3. 法人内で、医療、介護の一貫した教育を実施、医療施設と同様のサービスの提供が出来るよう施設内においても、年間教育計画を作成し実施している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近隣に母体法人の病院、介護老人保健施設、訪問看護ステーション、介護付有料老人ホームがあり、総合的なバックアップ体制が充実している。介護や医療面での連携が図られ、利用者や家族の安全安心につながっている事業所である。法人全体での研修体制が整っており、管理者及び職員は医療や介護について一貫した教育を受けて理解を深め、実践に活かしている。日常の支援においては職員は利用者を尊重し、思いや意向の把握に努め、利用者を生活のパートナーとして向き合うケアを重視し、家庭的な雰囲気のもとに生活の質を保ちながら居心地良く暮らせるよう努めている。近隣の幼稚園や保育園及び小学生との交流、中高生の職場体験や各種のボランティア及び介護実習生の受け入れを積極的に行い、施設への理解を高めると共に次世代の介護要員の育成にも寄与している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「穏やかで安らぎのある暮らし」「自立した生活」が営むことが出来る支援を目標に上げ、毎月の施設内学習会、年2回の人事考課面接により、理解を確認、共有することにより、利用者様の生活を主体とした支援を行っている。	母体法人の理念を基本とし、職員が利用者を尊重し生活のパートナーとして向き合うケアを重視した事業所独自の理念を掲げている。さらに、職員が自発的に作成した理念も掲示している。学習会等において理解を深め共有し実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の幼稚園児、保育園児と定期的に交流、また、中学生の職場体験、中高生のユースボランティア等積極的に受け入れている。隣近所には消防訓練時には参加を呼びかけ畑の収穫物は配布している。	幼稚園児や保育園児及び小学生との交流、中高生の職場体験や各種ボランティアの受け入れを積極的に行っている。近隣住民から差し入れがあったり、収穫野菜のおすそ分けをする関係が作られている。福祉まつりには利用者の作品展示や事業所紹介などをし、地域に対しての更なる周知に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の職場体験等、学生の認知症介護を学ぶ人々の実践の場として提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市職員、家族様、区長、民生委員、ボランティア代表の方を構成員とし、職員も含め各種行事、取り組み、入居状況を報告、アドバイスを頂きサービスの向上に努めている。	家族・区長・民生委員・市職員・ボランティア代表をメンバーとし年3回開催している。利用者の近況や行事の報告及び評価結果の説明等を行い、提案された意見や助言はその後のサービス向上に活かしている。今後はより多くの家族の参加を募っていくこととしている。	地域密着型の観点から議題に応じ消防・警察・医療保健・学識経験者等多方面からの参加を試み、幅広い意見等が得られるよう努め、それらを今後のサービス向上や家族の参加率向上に活かすことに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居状況、現状を報告、制度上の情報提供や、アドバイスを頂いている。また、広報誌、パンフレットを配布している。	市担当者が運営推進会議に出席しており、事業所の状況を良く理解してもらっている。処遇に関する相談や事業所の運営についてアドバイスを受けてたり福祉情報等の提供を受けるなど日頃から協力関係を築いている。市の窓口に広報誌等を配布している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日頃から職員間で確認し合い、何が身体拘束に当たるのか、身体拘束による弊害を理解している。 玄関の施錠は夜間のみとしている。	法人全体での接遇研修や事業所内の勉強会により身体拘束の内容や弊害について理解を深めている。言葉づかいや支援態度についても「チェック表」を活用し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠は夜間のみで、外出願望がある利用者には職員の見守り等により対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	何が虐待に当たるのか、職員間で確認している。 身体的虐待は入浴時、全身観察を行い異変の確認をしている。		

グループホーム桜野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内勉強会があり、ある程度理解していると思う。個別の事例に関しては、管理者が中心となり、問題解決に取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	相談時より契約内容、重要事項を説明、疑問点を確認、できる事、できない事を明確にし、納得いただいた上で申し込みをお願いしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各種行事の予定をお知らせし、参加、協力をお願いしコミュニケーションを図っている。また、家族様が来所時は、積極的に声をかけ多くの意見がいただけるよう努めている。	利用者からは日常の関わりの中から、家族からは電話や面会時に意見や要望を聴いている。各ユニットの壁にお知らせ用「家族の皆様へ」と書かれた「ウォールポケット」が設置され、情報を共有している。出された意見や要望について検討し、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に話し合う機会を設けている。言いづらことは看護師が吸い上げ、全体の問題として共有している。管理者の権限を越えるものは上申し迅速な対応をしている。	管理者は朝夕の申し送り時や勉強会及び年2回の面談により職員から意見や要望を聞いている。職場内は日常の支援の中で意見や提案を発言しやすい雰囲気となっており、各ユニットの中心的な職員が取りまとめ、出された意見等を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課を実施、自己評価を元に面接を行い、納得できるまで話し合い、個々の来期の目標を設定している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職能考課により把握、スキルに合った研修会选择、法人内においても、集合、分散教育がある。また、施設内においても教育計画を作成勉強会を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は市職員、同事業者と知り得た情報を積極的に情報交換を行っている。職員も、個々のネットワークを活用、相互の情報交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前、必ず来所していただき、施設内見学、職員と接する機会を作っていただき、お話を伺っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	問題点を明確にした上で、施設においてできる事できない事、家族様の協力が必要な事を明確にし、納得していただいた上で申し込みをしていた		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内病院、老人保健施設、訪問看護、居宅支援事業所、老人ホームと連携、また、他サービス事業所の利用も含め説明し、紹介、連携に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様を「生活の主体」とし「生活のパートナー」として、信頼関係を築いている。何年も生活を共にすることで、自然な姿を職員も受け止めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様の希望、体調の変化等、細かに情報の提供を行い、共通の認識を持っていただけるようにしている。また、常に面会、外出、外泊等の協力を依頼している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会、外出、外泊は自由であり、積極的な協力をお願いしている。また、電話、手紙なども、家族様からの制限がない限り自由である。	本人の要望により、家族の協力を得ながら近隣への買い物や外食、お花見、正月の帰省、墓参り等馴染みの人や場との関係継続の支援に努めている。面会等は少なくなってきたが、家族や友人等には面会や外出について協力をお願いしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の時間、生活のリズムを大切にしながら自由に利用者様同士が関わりあえるよう支援している。また、気の合う方同士、同じテーブルで過ごしていただけるよう配慮している。		

グループホーム桜野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	何時でも相談できる体制になっている。希望があれば、他事業所を紹介、連携することもある。 運営推進委員会に退居家族様に入っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様の「今」を大切にしている。一緒にお茶をいただく等のコミュニケーションの時間を大切にしている。家族様の面会時に情報を頂く、また本人様の希望を伝えることもある。	職員は利用者一人ひとりの生き方を尊重し、行動目標である「昔を知る・今を知る・心を知る」を常に念頭に置き、日常のコミュニケーションや家族からの情報により思いや意向の把握に努めている。困難な場合には表情や仕草から本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族様、他事業所より情報の提供を受け、把握に努めている。入居後も不足な部分は家族様より情報を得よう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録、申し送りノート、健康チェック表等を用い、状態の変化を把握、情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様、家族様のニーズを踏まえ定期的に見直しを行っている。しかし、状態に変化がある時は随時見直しを実施し、家族様に報告、了解を得ている。	計画は6ヶ月または1年ごとに見直しているが、利用者の状況に応じ臨機応変に対応し、家族に了解を得ている。日常のモニタリングや医療情報を参考に、職員の気付きや家族の意向を反映し、より良い方向になるよう計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録をケアプランについてと、それ以外とを分け、併記できるようにし、情報を整理、共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の状態の変化に応じ、家族様と連携、法人全体としてバックアップ、また、希望があれば、他サービス事業所の紹介も行っている。		

グループホーム桜野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市役所、ボランティア様を通し、地域資源を把握し、必要時は地域に働きかけをしている。また、独自にボランティア名簿を作成している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は本人様、家族様と相談し決定しており、定期受診は家族様対応をお願いしている。医師への「状態報告書」を作成、書面にて情報の共有を図っている。	本人及び家族の希望する医療機関の受診としているが、利用者の大半が母体である医療機関で受診している。受診時の付き添いは家族対応だが、場合により職員同行も行っている。受診結果や服薬等の情報は家族と共有し、適切な受療を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	各ユニットに看護師が配置されており、変化を感じた時は相談、早期に対応できるよう健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者、看護師が主治医、病診連携室、病棟師長と連携、情報を交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にできる事、できない事を明確にし、終末期の話し合いをしている。状態の変化により、法人内老健、病院に移っていただくこともある。家族様の希望が変わった時は随時相談に応じている。	重度化した場合や終末期のあり方については、入居時に本人及び家族と話し合いを行い、事業所ができることとできないことを説明し対応方針を共有している。その後の家族からの相談は随時に対応している。状態の変化により同法人内の医療機関や老人保健施設等での対応を視野に入れた支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網を含め、緊急時の対応マニュアルを作成してある。また、職場内で定期的に勉強会を実施し、身につけるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署立会いのもとで、総合消防訓練を実施している。近隣住民にお知らせ参加、協力を依頼している。また、法人で大規模災害対策マニュアルを作成してある。	マニュアルや緊急連絡網が作成されており、災害時への対応が整備されている。消防署立会いのもとに避難訓練等を夜間実施も含め年2回実施している。職員はAEDの講習を受講している。食糧や飲料水は備蓄せず法人全体で専門業者に依頼している。	夜間時は職員が少なく対応には限界があると思われるため、地域住民・運営推進会議メンバーへ呼びかけ、理解を深めてもらい、利用者の見守り等の対応への協力依頼に向けた取組みに期待したい。

グループホーム桜野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	禁止行動、使用禁止用語、エチケット集、基準となる言葉を決めて対応している。 法人で待遇委員会があり、毎月チェックリストにより、自己評価を行い、意識を高めている。	職員は、利用者の尊厳を尊重し、敬意を持って接しており、排泄や入浴時の羞恥心にも配慮を心がけている。常に言葉づかいや支援態度について確認しながら自己評価を行い、接遇に対する意識を高めている。広報誌等への写真掲載は本人や家族の了解を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の衣服は本人様の好みで選択している。毎日のレクリエーション等も希望を取り入れている。一緒にお茶をいただきながら、コミュニケーションを取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活の流れの範囲で、個々の生活のリズムを個性として受け入れている。食事も本人様のリズムの中で摂っていただいている。配膳、洗い物、掃除、洗濯物たため等にも対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装は清潔を心がけ、本人様の好みによって選択していただいている。 理美容は家族様対応でお願いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは出来るだけ一緒に考えている。食事作りから後片付けまで、一人一人できる事はないかを見つけるようにしている。	利用者の好みや状態に合わせ、栄養やカロリーバランスを考慮して担当職員が献立を作っている。利用者は掘り炬燵の食卓で職員と楽しく会話をしながら一緒に食事をしている。季節に応じた郷土料理や行事食、家族と一緒にの外食なども楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	常に水分補給に努め、献立も記録を残し重複しないようにしている。また利用者様の病気、嚥下状態によりカロリー制限、お粥キザミ、ミキサー、トロミ等の対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	殆どの方が義歯であり、取って洗浄を実施自分で出来る方は自分でやっていただいている。食後には水分を多く摂っていただき、口腔内に食物残渣が残らないようにしている。		

グループホーム桜野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、声掛け、誘導を行っている。夜間は睡眠時間の確保を優先し、オムツ、ポータブルトイレの使用を勧めることもある。失敗時には、プライドに配慮し、人目に触れないよう努めている。	利用者個々に排泄チェック表を記録し、排泄パターンやサインを把握している。自尊心や羞恥心に配慮し、さりげない声かけや誘導を心がけ、トイレでの排泄支援を行っている。おやつを乳製品にしたり水分補給を行い、便秘の予防に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給に努め、食材に食物繊維の多い食材を使うなどの工夫をしている。 日常生活の中で、できるだけ体を動かし、身体機能の維持に努めているが、薬剤を使用することもある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望に沿うよう努めている。入浴を拒否する方もいるが、職員間で連携し週2回以上は入浴をしていただいている。	利用者の希望や体調に合わせてコミュニケーションを図りながらの入浴支援に努めている。入浴に拒否傾向がある利用者でも職員の連携や工夫により週2回以上は入浴している。季節により、ゆず湯や菖蒲湯などで入浴が楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中レクリエーション等で、生活にメリハリをつけるようにしているが、参加の強制はしない。また状態により参加を控えていただき、居室で休んでいただく時もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は職員管理となっており、服薬時は本人様に手渡し、確実に内服できたか確認している。状態に変化があった時は看護師に報告「状態報告書」により医師に報告する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常活動の中で、何が出来るのかを見つけ、集団の中で、できる役割をもってもらい、様々なレクリエーション、行事を実施、楽しんでいただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、短時間でも戸外に出る機会を作り、散歩等は、家族様、ボランティアの協力を得ている。墓参り等は家族様に本人の希望を伝え、協力を依頼している。	天候や体調に配慮しながら、できるだけ戸外へ出るよう努めている。近隣への散歩や初詣、外食、墓参り等は家族やボランティアの協力により行っている。また、事業所の敷地内での日光浴や食事などで楽しむよう努めている。	

グループホーム桜野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持は自己責任において可能。買い物等の希望がある時は、家族様に伝え協力を依頼している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様より制限を受けない限り、原則、職員を介し自由に使用できる。手紙を出す時は家族様に確認をお願いしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関はユニット毎になっており、中庭をはさんだ各ユニットは自由に行き来ができる。居間は自由にお茶が飲め、TVが観られる。壁には行事の写真、作品を掲示、季節感を出すよう心がけている。また、トイレが分からない方に大きく表示をしている。	中庭をはさんで2つのユニットがあり、それぞれ行き来ができるようになっている。室内は光が差し込み明るく開放感があり、清潔で室温も適度に配慮されている。壁面には利用者の作品や行事の写真が飾られ、季節感や生活感を感じさせている。居間は一段高くなっている畳に掘り炬燵があり、テレビや会話等でくつろげる場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に縁台、椅子、テーブルを配置、自由に使用できるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、家具、寝具等使い慣れた物をそのまま使用することを勧めている。居室の模様替え、危険物以外の持ち込みも自由である。居室の表札もつける、つけないも自由にしていただいている。	居室にはエアコンとクローゼットが備えられている。家具や生活用品類は使い慣れた物を持ち込んでもらうようにしている。室内には利用者それぞれに写真や馴染みの物を飾ったり、仏壇やテレビを置いて、安心して居心地良く過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口に目印や、トイレは大きな文字で標示する等の工夫をし、声かけ、見守りで過ぎしていただき、できるだけ体力の低下を防ぎ、安全で、自立した生活ができるようにしている。		